

世界有数の漁場に異変

ベーリング海

世界有数の豊かな漁場に異変が起きている。2021年、北極海に隣接するベーリング海で約100億匹のズワイガニが死滅したと判明。米海洋大気局（NOAA）は、海洋熱波と温暖化でベーリング海が「亜寒帯化」し、生態系が変化したことが大量死の要因と結論付けた。専門家は「世界で最も生産性の高い海洋生態系が、あらゆる予想よりも速く変貌しつつある」と警鐘を鳴らしている。

カニ100億匹が死滅



米アラスカ州で、海洋調査船に積み込まれたズワイガニの撮影日不明、米海洋大気局提供（AFP時事）

◇海洋熱波で餓死

切り立った岩山に囲まれた湾には野生のラッコが浮かび、崖の上ではハクトウワシが羽を休める。北太平洋とベーリング海を隔てるアリューシャン列島の中ほどに位置する米アラスカ州ウナラスカ。日本の大手水産企業も加工工場を置く漁業の一大拠点だ。スケトウダラやマダラ、オ



ヒョウ、タラバガニ、ズワイガニが主な漁獲物で、冷凍加工後に日本や米国、欧州、中国に輸送される。だが、22、23両年には大量死を受けてズワイガニ漁が禁止された。年2億2700万匹（約340億円）規模だった水揚げ高はゼロになり、水産業は大きな打撃を受けた。

NOAAアラスカ水産科学センターのコディ・スワルスキー氏は「18年にはズワイガニが大量に捕れていたため、死滅をまったく予期してい

なかった」と振り返る。18、19年に海洋熱波がベーリング海を襲い、ズワイガニの代謝が上がったが、そのカロリ―消費を賄うだけのエサが存在しなかったために餓死。さらに、海水温上昇でマダラが北上し、わずかに生き残ったズワイガニを食べ尽くしたという。